

地域包括ケアシステムにみる歯科医療機関の参加とICTの利活用について

常務理事 杉山 茂夫

公益社団法人 日本歯科医師会

Participation of dental care facilities and ICT utilization in terms of integrated community care system

Sugiyama Shigeo, Standing Director

Japan Dental Association

In the integrated community care system, it is essential to share medical information about patients by multidisciplinary cooperation including the medical and dental care, dispensing and nursing care which requires building an efficient environment ensuring security. Pertaining to the regional medical information network which is one of concepts in the integrated community care system, the Japanese government has promoted to build an environment with ICT utilization, and an initiative with possible cooperation amongst regional medical information networks is considered to be developed in the future.

Therefore, we are having a series of discussions on the development of ICT utilization which is essential for various multidisciplinary cooperation such as an integrated community care in dental clinics.

Keywords: Integrated community care system, Regional medical information network, ICT in the medical area

1. 地域包括ケアシステムにみる歯科医療機関の参加とICTの利活用について

地域包括ケアという概念をはじめて提起したのは1970年代に、広島県御調町の公立みつき病院の山口昇医師であった。地域の実情に応じて、高齢者が可能な限り住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に地域に確保され、重度でも在宅でQOLが維持できる体制づくりである。

提起から約半世紀程たった現在、医療等分野におけるICTの利活用による医療情報連携ネットワークの構築が推進され、おのずと地域包括ケアシステムにおける多職種間の患者情報の安全・安心な管理及び必要な医療情報のやり取りの効率化が図られ、これまで以上に医療提供側および患者側にとってより良い環境が整備されつつある。

一例に、歯科が定着している地域として、大分県臼杵市の「うすき石仏ねっと」を紹介する。本ネットワークは、同市医師会立の急性期病院を核に地区医師会・歯科医師会(全会員)・薬剤師会・市行政・介護福祉事業者さらには消防本部までが参画しており、地域に根付いた包括ケアシステムを構築している。

その中で、ICTを活用した検査データの閲覧から始まり、歯科情報も含め順次機能向上を図り、本年7月より健診データの共有まで進めている。開発当初よりネットワーク開発運用責任者として、同市医師会立コスモス病院副院長(医師)及びICTシステムの専門家とし

て、同市医師会情報管理センターのセンター長が同ネットワーク全体を牽引している。本会としてもICTを効率よく利活用しているケースとして、参考にするべき事業であろうと考えている。

現在、地域包括ケアシステムにおける医療情報連携ネットワークへの歯科診療所の参加割合はまだまだ少ない。様々な要因は考えられるが、本来歯科は、固定診療設備による診療が原則となっており、これまで地域医療情報連携ネットワークに参加している歯科診療所が少ないこと等から、ICTを活用した医療情報連携のメリットに接する機会が少なく、大規模病院等を抱える医科と比べて、意義を感じない歯科診療所が存在することは否定できない。それに加え、医療情報連携ネットワークへの参加による、当初の設備投資が負担になることが考えられる。

近年、地域包括ケアシステムをはじめ、国は医療等分野におけるICTの利活用を推奨している。「日本再興戦略」や「保健医療2035提言書」にも本格的なICT化時代の到来を踏まえた質の高い効率的な医療の実現を目的とした施策が打ち出されている。

ICTの利活用は、社会的にも意義深いものであるが、これはあくまで「手段」であり「目的」ではないことをしっかりと把握しておく必要がある。現在、日本各地で地域包括ケアシステム(地域医療連携)が進められており、歯科医療機関もこの連携が必須である。

最も「機微」な医療情報を扱うことの責任を認識した上で、地域歯科医師会、地区行政または関連他職種と十分な連携のもと参加することが望まれている。

1-C-3-4 シンポジウム/シンポジウム:1-C-3